

地元の区議会議員情報紙

## とりがい 秀夫の地域ニュース

南千住 8-3-3-201 電話 & FAX ( 3 8 0 7 ) 4 8 1 1

自民党機関紙【39】22年11月号 毎月発行



# 区内共通お買い物券発売

## 10%お得・12月に区内商店街

区内商店街の活性化を図るため12月に区内共通お買い物券を売り出すことになりました。今回で3回目となりますが、過去2回の売り出しの時には人気があり、いずれの商店街も半日で売り切れた実績があります。発売方法は前回と同じで、お買い物券はステッカーのあるお店で使えます（写真参照）



汐入の三徳始めスーパーではほとんど使えませんが、ファミリーマート始めコンビニでは使える店が多くなっています。ララテラスは区内商店街には未加入のため使えません。

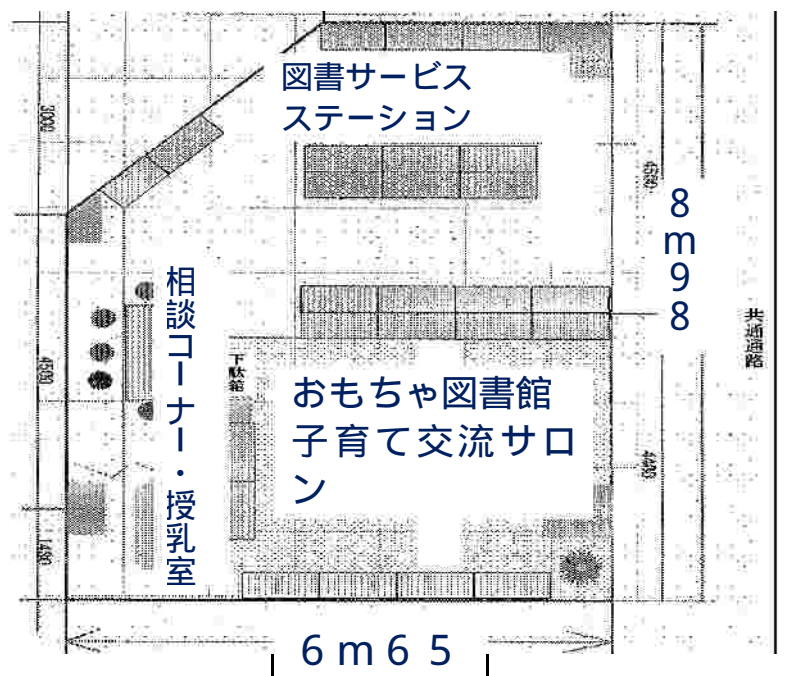
## 発売は12月4日(土)10時

券は1万円で1万1,000円分あります(500円券×22枚)。但し1人5万円迄となります。べるぽーと汐入商店街は西館中央付近・コツ通り商店街の中程の販売所で売り出します。ともに10時から発売し、300組(1万円×300組)で売り切れとなります。区としては商店街振興策のため区内共通お買い物券に1,000万円を補助しています。

# 汐入図書室増設部分開設

## 12月18日開所式 おもちゃ図書館併設

本誌8月号で報告した「汐入図書ステーション増設」及び「おもちゃ図書館・子育て交流サロン」の工事がこの度終了し、12月に開所する運びとなりました。新しくなる増設部分は主に社会福祉協議会が運営し、子育て世代を応援する事になります。まず、相談員が常駐し、「親子の相談室」と「おもちゃ図書館」を開設します。この事業により、子育てや家庭での悩みを持つファミリー層の方々の強い味方にもなるのではないのでしょうか。図書館部分には7,600冊ほどの児童図書を置きます。すでに稼働している図書ステーションには大人



向けの図書が5,000冊程度置いてありますが、これにより、大人と子供部分の棲み分けが出来ます。現在の汐入図書ステーション利用者は年間15万人、1日500人が利用していますが、さらに多くの方の利用が予想されます。南千住地区を拠点に議会活動をしている私にとって、「この街の発展が他の荒川区を必ずリードしていく。」との信念でこれからも働いてまいります。

# 汐入公園・難題解決に向けて

## 犯人を捜せ、紙くず散布の悪戯

数年前から汐入公園の水神大橋両側の展望広場付近で雑誌を断裁機で2 cm四方にカットした物を、定期的に散布するという悪質な悪戯（いたづら）が続いています。公園の管理人さんや草刈りをする作業員の皆さんにとって、清掃の面で影響が出ています。その対策として、数年前には警備員を置いていましたが、経費削減の影響か現在は置いていません。



## 来春設置の10 mの展望塔に防犯カメラを提案

来年の春に水神大橋の際に東京芸術大学の川俣教授が地域の人たちや子ども達と共同で建設する、**展望塔**が計画されています。町会の中には防犯上の問題でこの建物に対し、危惧する方もいらっしゃいますが町会としては前向きに捉えているようです。そこで、これを期に私としてはここに防犯カメラの設置や警備員を置く事が出来れば、公園内での悪戯や事件・事故の減少にも役立つのではないかと考え、関係者に働き掛けています。



## テラス側の異臭対策に取り組む

水神大橋～千住汐入大橋間のテラス側でこの数ヶ月間、テラスに水が流れ悪臭がしていました。さっそく前・崎山都議を通して管理者の六建に連絡しました。対策として清掃を行い、通行人の通行を確保しました。現在、原因を確かめるべく調査を行っています





# 有馬記念と汐入の深い縁 (前半)

## 民俗学者 柳田國男と有馬頼寧

今回は2回に分けて「汐入地区と競馬の祭典・有馬記念との関わり」をお話しします。

今から約100年前、大正の初めに当時の「汐入村」を対象にして、東京で初めて民俗学という視点で学術調査が行われました。「汐入」の地名が世に出たのは、調査結果の報告を行った「郷土会」の席上においてであると言われています。この「郷土会」を主催していたのが、日本における民俗学の開拓者と言われている柳田國男（1875～1962）です。柳田は東京大学で農政学を学び、農商務省官僚となり、地方の公演旅行などでその土地の実情にふれるうちに次第に民俗的なものへの関心を深めていくこととなります。そして私たちも聞いたことがある、東北地方の伝承を記録した、柳田民俗学の出発点となる「遠野物語」等を刊行します。



柳田國男



有馬頼寧 (ありまよりやす)

さて、大正4年5月12日に行われた34回郷土会の席上において、「汐入村の変遷」というタイトルで明治期から大正にかけての汐入の風習等を調査し、報告したのが郷土会会員であった有馬頼寧（ありまよりやす）（1884～1957）です。次回は有馬頼寧の人物像、競馬・有馬記念との関わり、有馬が調べた「汐入村」についての報告についてお話しさせていただきます。

※ 本欄に書いた「柳田國男」と現在の作家「柳田邦男」は別人物です。